

2017 都市囲碁リーグ開幕

6月22日～26日中国南寧



開幕戦の前、上海通联金融科技发展有限公司（スポンサー）と大阪鑫雲囲碁倶楽部（日本代表）は正式に契約を交わした。

上海通联金融科技の郭鋭社長は自分の30年の囲碁歴を紹介され、現在は人工知能の参入により囲碁界は黄金時代を迎えている、囲碁の発展と日本の棋士達の成長を手助けしたいと表明された。

梅艶は大阪鑫雲囲碁倶楽部の代表として、上海通联金融科技发展有限公司の支援に深く感謝し、日本の若い棋士達は必ずこの貴重な試合チャンスを生かし、ベストを尽くして精いっぱい戦うことを表明した。

夜の壮行会に大阪鑫雲囲碁倶楽部と華工伝奇のリレー方式の公開対局が行われ、中国のネット「弈客」で生放送された。







華やかな開幕式の後、32チームによる熱戦が繰り広げられた。

午前対トロント戦、わがチームは、序盤は順調に優勢を築いたが、中盤で読み落としがあり、怪しい形勢になったところ、何と対局パソコンのトラブルが生じ、解決不可能のまま引き分けとなった。こんなこともあってか、都市囲碁リーグ史上初の持碁だった。

午後の対広州戦はたった一手の緩着で、中盤の流れを一気に掴まれてしまった。その後は相手の力に圧倒されたまま挽回することができなかった。落ち込んでいた私達に郭社長は豪華な海鮮料理を用意してチームをねぎらってくれた。明日こそ全力をぶつけていこうとみんなは心の中で誓った。





3 試合目の相手はさらに強敵揃いの成都だった。中国甲リーグの主役と中国アマ囲碁界の四天王を相手に、中盤まで互角に戦っていた。手厚く打ってあれば息の長い碁になったと思うが、実戦はわずかな薄みを突かれ、一気に押し切られた。出場選手の力も検討陣の力も大きな差があると感じた。

佐藤洸矢選手の感想：

僕は中国に来るのは2回目で、まだ慣れたとは言えないですが、この国の事が少しずつ分かってきたような気がします。特に、会場の大きさや雰囲気や人の数、熱気などから囲碁に対する情熱をすごく感じました。中国では外を歩いても、車のかいぐって歩き、車同士の交錯も当たり前で、日本と比べてかなり注意が必要でした。所々日本との共通点もありましたが、やはり違うところが沢山あって戸惑ったりもしましたがそれはそれでいい経験だったと

思います。リレー碁で自分も対局に参加させて頂き、検討もいろいろ見せて頂き大変勉強になりました。また、囲碁だけでなくいろいろな面で勉強になったと思います。中国の方々は、僕達を快く迎えてくださり、握手や挨拶を交わし、言葉は通じなくても囲碁を通して繋がることができたことをとても嬉しく感じました。僕達は囲碁の実力がまだまだ足りなくて、もっと精進しなければなりません。一人一人がもっと自分を高め、協力してお互いに高め合わなければなりません。そのためには、今までよりさらに努力しなければならないと、身を以て感じました。そう感じる事ができたのもこの中国に来られたおかげなので、本当に来てよかったと思いますし、感謝しています。最初はどんな旅になるか想像もつかなかったのですが、初対面の関西の棋士の方々とも親睦を深め合うことができ、いろいろな勉強をさせて頂けて素晴らしい旅になりました。